

わたしたちに 求められること



青戸 可奈子さん
鮫川中3年

朝河貫一賞は、国際的歴史学者「朝河貫一博士」の名を冠した賞で世界のさまざまな文化や価値観を尊重し、国際社会の平和と発展を担うことのできる国際性豊かな青少年を育成することを目的として行われているものです。県内から、中学生の部に70点、高校生の部に86点の応募がありました。青戸さんは、中学生の部の中から優秀賞に選ばれました。



ホームステイ先の家族と一緒に

今年の夏休み、私は「英語が使える人材育成・ふくしまプラン」に参加し、オーストラリアのプリズベーンにホームステイをしました。私にとって、日本の地を離れることは初めての経験であり、胸が高鳴ると同時に、とても不安だったのを覚えています。

そもそも私がこのプランに参加したいと考えたのは、「外国」に対する憧れからでした。日本とは異なる景色、習慣、食べ物……テレビや雑誌などで目にするそれらはとても美しく、楽しそうに感じられ、ぜひ自分の身で体験したいと思ったのです。

このような憧れは、きっと誰もが持っているものだと思います。しかし、実際に現地に着いて、そ

こが日本ではないのだと実感したとき、私は、単なる憧れからホームステイを考えていた自分は甘かったと痛感しました。

当たり前のことですが、言葉が全く通じないのです。私は、日本語の通じない環境に行くということは、頭の中では分かっていた。しかし、実際には、ALTYや塾の先生など、ある程度の日本語がわかる外国人の方々とお話をする時の感覚がぬぐえず、どうしても日本語を使ってしまうのです。

今までずっと、日本語で自分を表現したり、気持ちを伝えたりして来たのに、場所が違うだけでそれができなくなる。そのことが、私には恐ろしく感じられました。言いたいのに言えない。言っても

伝わらない。それがとてももどかしくて、仕方がありませんでした。

また、日本とオーストラリア文化の違いも、ホームステイをするうえでネックとなりまして。私はホームステイに、自分なりのイメージをもって参加しました。もちろんそれは、私がテレビや雑誌を見て作り上げただけの勝手なイメージです。そのため、実際にオーストラリア文化の中で生活を始めてみると、イメージとのギャップが多々ありました。

例えば、オーストラリアは日本とは違い、家に入る時でも靴をはいたままです。そんなささいな違いでも、私はなかなか受け入れることができませんでした。どうしても、「なんで靴を脱がないの？そのまま家の中に入ったら、家の中が汚れてしまうのに」「汚い」と考えてしまうのです。

しかし、そんな私とは対照的に、ホストファミリーは私のことを温か

く迎え入れてくれました。過去に一度、私と同じ日本からの研修生を受け入れたことがあったそうなので、慣れていたのかも理解できません。でも、私が理解できるようにと、あの手この手で分かりやすく話をしてくれたり、私が作った日本料理を本当においしそうに食べてくれました。

異文化にふれるという点では私もホストファミリーも同じはずなのに、自分はいつもとまどつてばかり。異文化を受け入れることがこんなにも難しいとは思っていませんでした。

異文化を受け入れるのに必要なことは何なのだろう。私には何が欠けているのだろう。そう考えたとき、以前英会話教室の先生が言っていた言葉を思い出しました。それは、「異文化を受け入れるときに、Why(なぜ?)という言葉は必要ない」というものです。

文化や習慣といったものは、それぞれの国や地域の歴史の中でつくりあげられてきたものです。それを、「なぜこうするの?」こうした方がいいじゃない」ととらえて



カブチーと一緒に

しまうということは、勝ちなおしつけです。そのことに気づいたとき、私は、今までの自分の

考え方をはずかしく思いました。私に欠けていたもの、それは、異文化を素直に受け入れることのできる大らかさだったのではないかと思います。お互いの価値観の違いを認め合い、受け入れることができる。

そんな大らかな心を持っていたからこそ、ホストファミリーの方々は、私と真剣に向き合ってくれたのだと思います。だからこそ、気持ちを通じ合ったときの喜びは、とても大きいのです。

ただ英語で話をするのではなく、互いに心を通い合わせてこそ「交流」なのだ、そのときになって初めて感じました。

言葉だけが伝える手段なのではない。そんな当たり前のことに、ホストファミリーは気づかせてくれました。

現在、地球上には六十億人以上の人々がいて、世界の人口は今もなお増え続けています。

人々の数だけ個々の考え方が生まれるのですから、これから先、互いを理解し合うことはさらに難しくなっていくと思います。その中で私たちに求められるのは、互いに異なる価値観を知り、認めようとする姿勢です。

違うものを受け入れることは、実際はとても困難で、体験してみないと感じることはできません。だからこそ私は、ホストファミ

リーとの触れ合いを通して心を通い合わせることの喜びを知ることができて、本当によかったと思っています。国際化が進む中で、この喜びを知ることが重要なのではないのでしょうか。

だから私は、今回のホームステイのような、互いに理解を深め合う機会をもっと設けるべきだと思います。

心を通い合わせることの喜びは、ささいなことでもいつか大きな架橋となって世界中の人々を結び、強い絆になっていくと思うからです。

●行政情報

定住促進住宅の入居者を募集します

今年度、赤坂西野字茅地内の空き家を改修し、定住促進住宅として整備した「茅住宅」の入居者を次により募集します。

- 所在地 大字赤坂西野字茅135番地
- 構造 木造平屋建て
- 間取り 居間6帖、和室6帖2室、和室4.5帖1室、台所、浴室、トイレ、物置
- 募集戸数 1戸
- 入居資格 ▶鮫川村に住所を設定する意志があること▶現に住宅に困窮していること▶地方税を滞納していないこと
- 入居条件 ▶家賃、地方税、公共料金などを滞納していないこと▶入居する際、保証人が必要です▶入居者には赤坂西野区民としてふれあいを大切に、活発に地域活動に参加していただきます
- 入居者負担金 ▶家賃…月額30,000円▶敷金…60,000円▶その他…電気・ガス・水道の使用料、浄化槽の維持管理委託料・清掃手数料、テレビ共同受信施設組合の年会費など
- 入居時期 平成21年4月1日(水)以降
- 入居者の選考 入居者の資格に該当した方が多数の場合は、住宅困窮度が高い方、もしくは村外から移住を希望する方を優先し、同程度の場合は抽選により決定します。
- その他 犬、猫などの動物の飼育は認めません。
- 申し込み期限 平成21年3月23日(月)
- 問い合わせ 村地域整備課建設係 ☎49-3116

定住促進住宅「茅住宅」平面図

